

京都府豊かな森を育てる府民税活用事業

# 京の森林文化を守り育てる支援事業 に関するアンケート結果

令和3～5年度実施団体

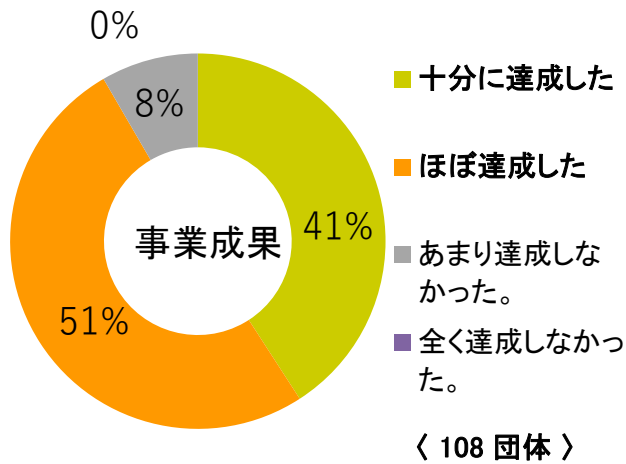
調査目的	本事業を実施した感想や意見を伺い、今後の事業運営の参考とするため。
調査対象	令和3年度から令和5年度までに本事業を実施した112団体
調査期間	令和6年4月19日から5月24日まで
回収率	96.4%（112団体のうち、108団体から回答）
調査方法	返信用封筒を同封した郵送による調査
結果概要	<ul style="list-style-type: none"><li>本事業に取り組んだ成果について、92%の団体が当初目的が達成できた、更に94%の団体が地域活動などに波及効果があったと回答した</li><li>一方で、48%の団体が事業後もやり残した課題や新たに生じた課題があると回答した</li><li>本事業がなければ資金面から事業実施を断念した団体が66%あった</li><li>事業制度について、82%の団体が現行の「対象事業及び事業内容」、74%の団体が「100万円以内の定額補助」のままだが良かったとした</li><li>書類作成の作業負担は75%の団体がそれほど感じていないとしたが23%の団体が非常に手間が掛かったなどと回答した</li><li>事業計画や実施時に技術面でのアドバイスを受けた団体が84%あった</li><li>本事業について、100%の団体が次期も継続した方が良かったとし、97%の団体がその際には再度本事業を活用したいと回答した。</li></ul>
備考	グラフ中の〈 〉は、各設問に対する回答団体数または件数

令和6年6月

京都府農林水産部森の保全推進課

# 1 事業成果や波及効果に関すること

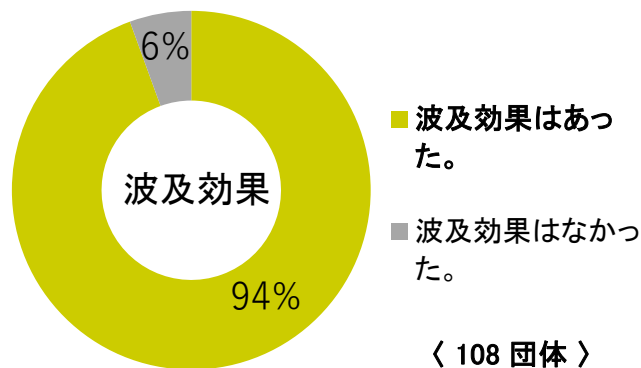
問1 貴団体が本事業を活用して取り組まれた森林や樹木の保全対策について、当初目的とされていた成果は達成できましたか。



**92%の100団体が事業実施により当初の保全対策の目的が達成できたと回答**

十分に達成した(45団体)、ほぼ達成した(55団体)を合わせ、92%(100団体)が本事業により保全対策の目的を達成したと回答した。一方、あまり達成しなかったと回答した8団体は、「資金不足で必要な範囲を全て行えなかった」「3年目の補助が採択されず途中になった」「まだ時間がたっていないため現時点で成果はわからない」という理由であった。「全く達成しなかった」と答えた団体はなかった。

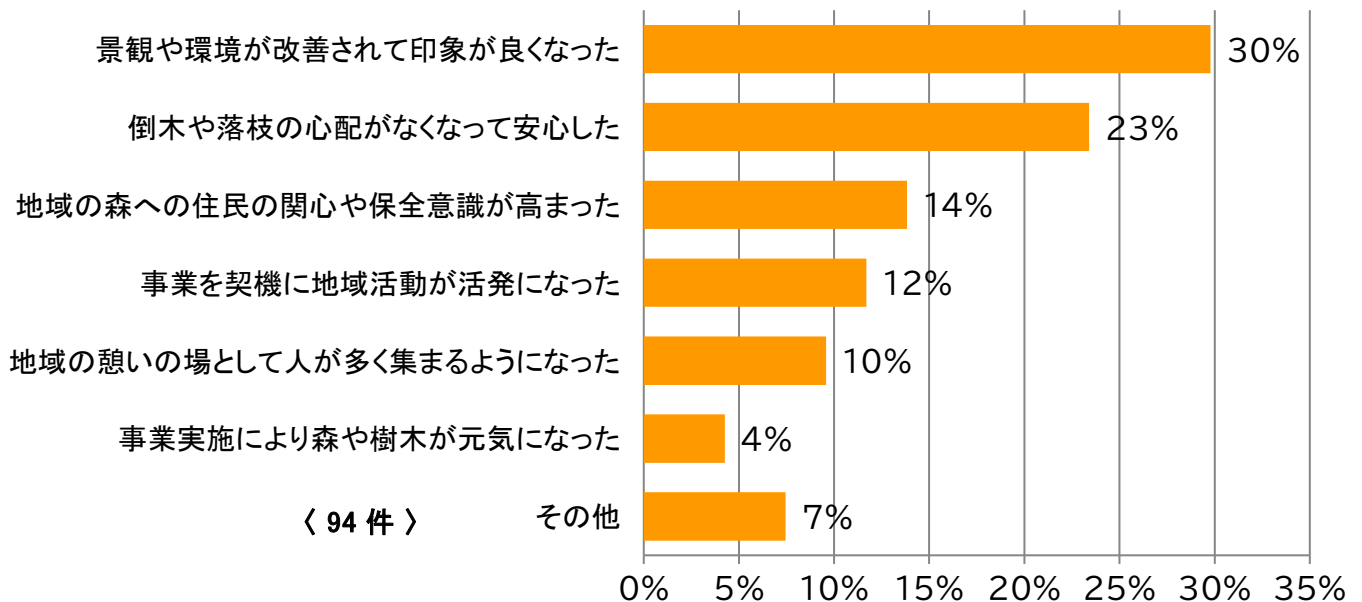
問2 本事業実施後、実績報告に記載いただいた内容や地域活動について波及効果はありましたか。



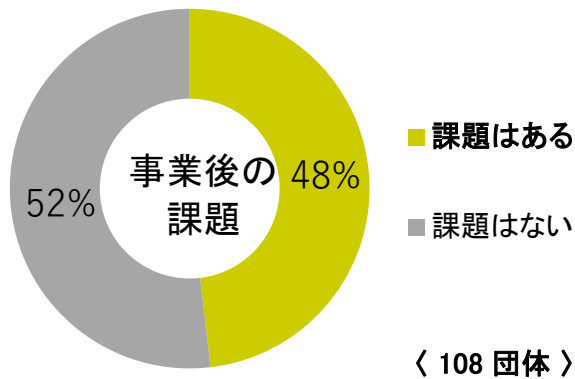
**94%の102団体が事業実施後に直接的な事業成果だけでなく、何らかの波及効果があったと回答**

どのような波及効果があったのかという問いに対し、①景観や環境が改善されて印象が良くなった(28団体)、②倒木や落枝の心配がなくなって安心した(22団体)、③地域の森に対する住民の関心や保全意識が高まった(13団体)、④事業を契機に地域活動が活発になった(11団体)、⑤地域の憩いの場として人が多く集まるようになった(9団体)、などの回答があった

→どのような波及効果ですか (複数回答)



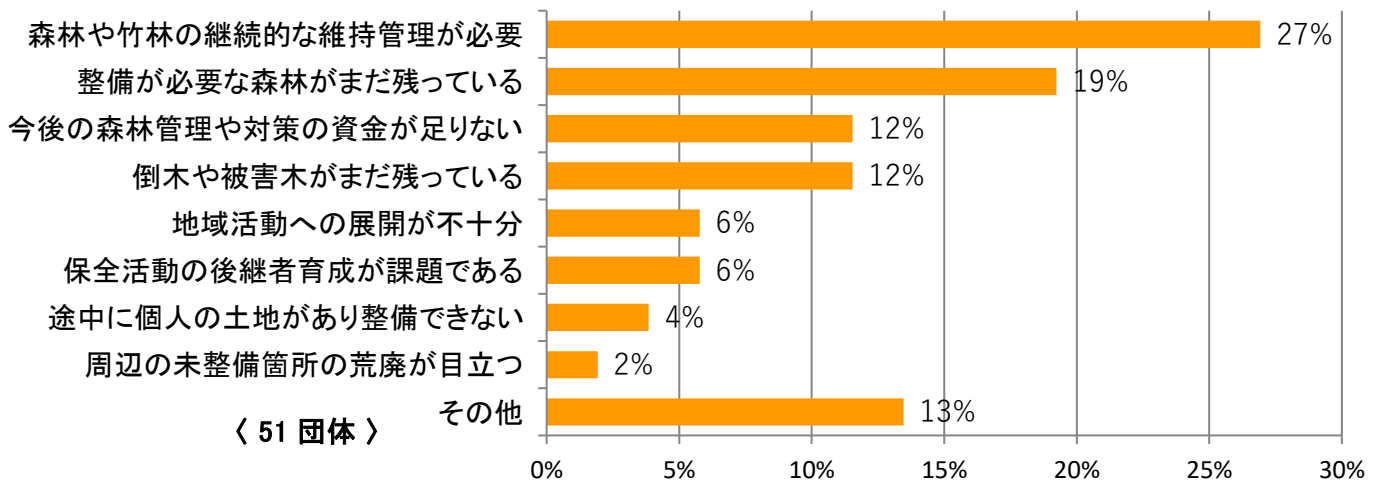
問3 本事業では解決できなかった、もしくは事業実施後に生じた、森林や樹木の保全に関連した課題はありますか。



48%の52団体が事業後もやり残した、もしくは新たに生じた課題があると回答

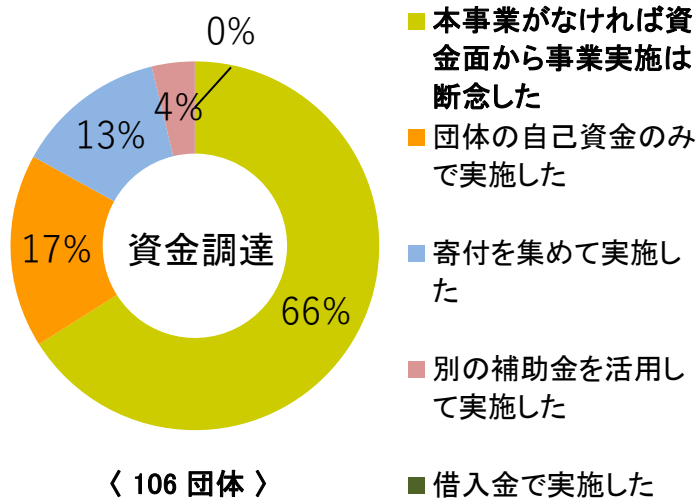
課題があったとした52団体にどのような課題があるか尋ねたところ、①整備後も森林や竹林の継続的な維持管理が必要である(14団体)、②整備が必要な森林がまだ残っている(10団体)、③今後の森林管理や対策の資金が足りない(6団体)、④倒木や被害木がまだ残っている(6団体)という回答であった。

→どのような課題ですか (複数回答)



## 2 資金調達に関すること

問4 事業で取り組まれた内容について、もし本事業がなかった場合はどのようにして実施されましたか

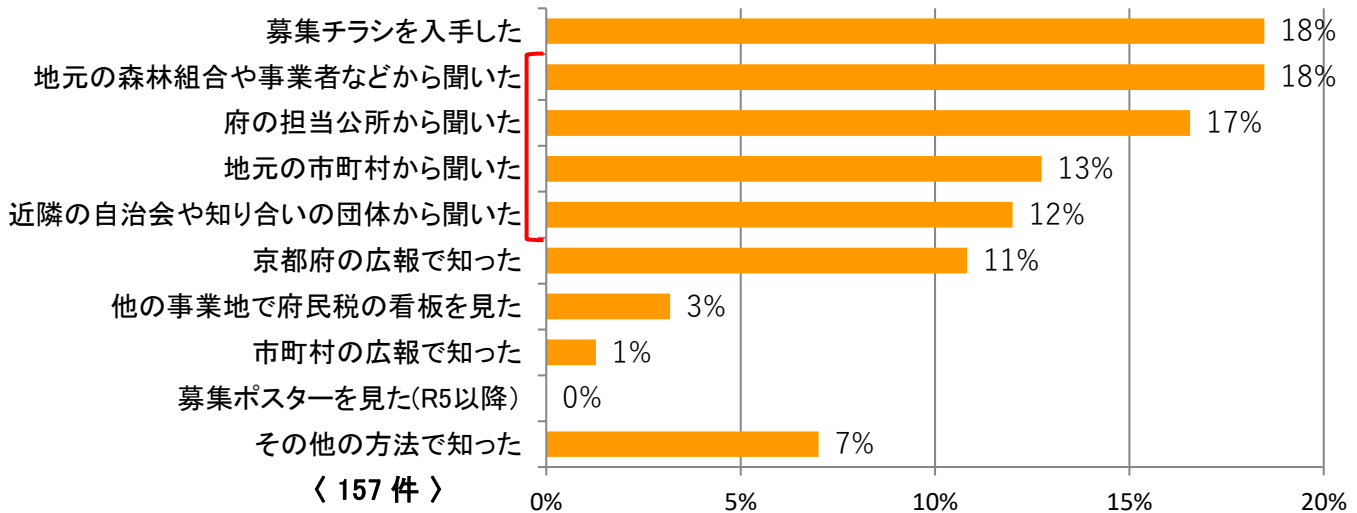


66%の70団体が、もし本事業がなければ資金面から事業実施は断念したと回答

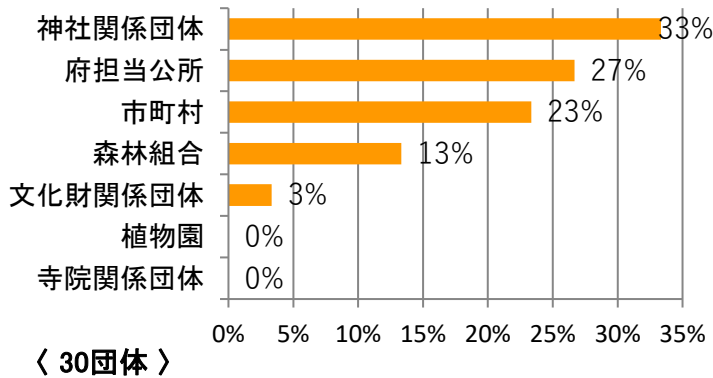
「本事業がなければ別の補助金を活用して実施した」と回答した4団体に、それはどのような補助金を検討したかと尋ねたところ、京都府指定・登録文化財等補助金(1団体)、京丹後市安心安全森づくり事業(1団体)、伊根町観光協会支援金(2団体)を検討したと回答した。更に今回なぜ本補助金の方を選択したのか、という問いに対しては、補助額の上限が大きいこと、上限以内であれば自己負担がないこと、森林文化の魅力を活用する事業趣旨に合致すると考えたこと、という回答があった

### 3 事業制度の周知や広報に関すること

#### 問5 本事業の募集について、どこから知りましたか（複数回答）



#### →募集チラシの入手先

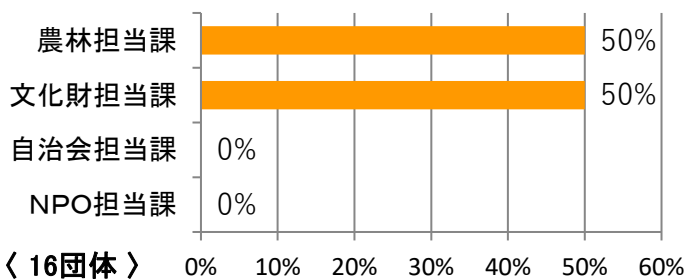


事業募集を知ったきっかけは、61%の計93団体が地元の森林組合や事業者、行政機関、近隣自治会などから聞いたと回答した。

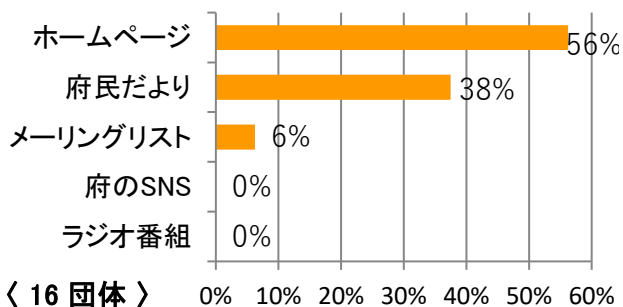
本事業の募集を知ったきっかけについて、募集チラシを入手したという29団体に入手先を尋ねたところ、神社関係団体(10団体)、府の担当公所(8団体)、市町村(7団体)、森林組合(4団体)、文化財関係団体(1団体)との回答であった。

情報の入手先を尋ねたところ、地元の森林組合や事業者から聞いた(29団体)が最も多く、ついで府の担当公所(26団体)、地元の市町村の農林担当課や文化財担当課(20団体)のほか、近隣の自治会や知り合いの団体(18団体)からの情報などであった。

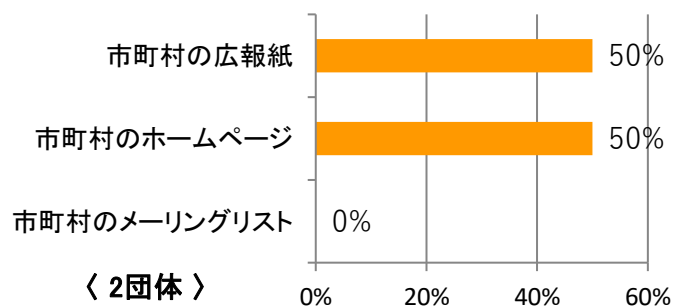
#### →市町村のどの担当課から聞かれましたか。



#### →本事業を知った京都府の広報媒体

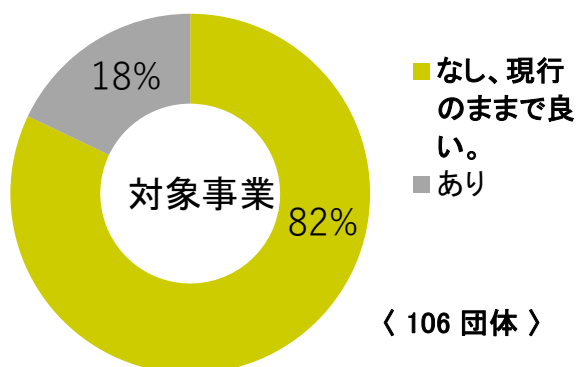


#### →本事業を知った市町村の広報媒体



## 4 事業制度に関すること

**問6** 本事業では対象事業を①社寺の森、②文化・伝説の森、③伝統産業に用いる植物を育成する森、④伝統行事に用いる植物を育成する森、⑤名木古木としています。これ以外に本事業の対象となれば良いという文化的な背景のある森林や樹木はありますか。

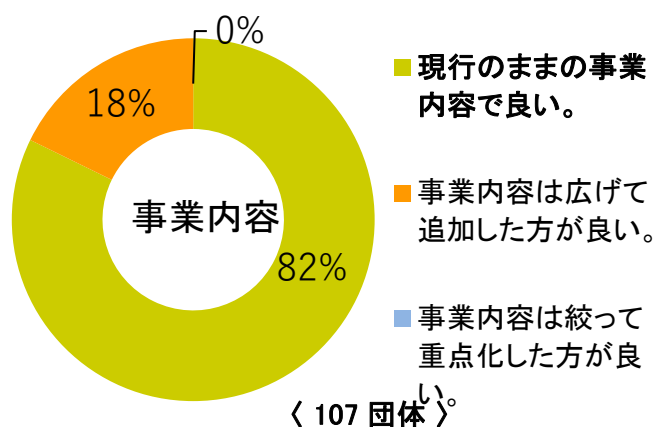


**82%の87団体が現行の対象事業のままで良いと回答**

ありと回答した団体が挙げた新たな対象事業

- ・ 観光や娯楽に活用できる森 (19団体)
- ・ 森林浴など健康を目的とした森
- ・ 祖先より受け継がれている墓地の森
- ・ 過疎化が進む地域の森
- ・ 地域の名所旧跡や公共の場所の樹木
- ・ 里山の森や社寺の森につながる周囲の森

**問7** 本事業では事業内容を、①抜き切りや竹林整備などの「森林の整備・維持管理」、②植生復元などの「森林の改良」、③枯死木・枯損枝伐採などの「被害木対策」、④松くい虫やナラ枯れ予防対策などの「森林病虫害獣害対策」、⑤樹勢回復や土壌改良などの「名木古木の蘇生対策」、⑥植生調査や樹木診断などの「調査・保全手法検討」としています。これ以外に対象とする内容はありますか。



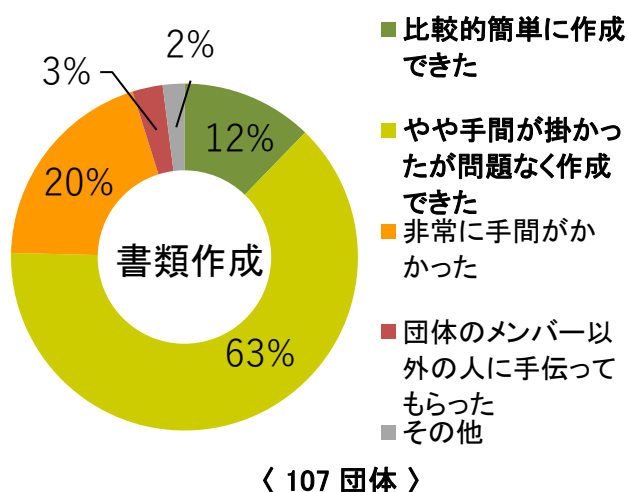
**82%の88団体が現行の事業内容のままで良いと回答**

事業内容を広げて追加した方が良く (19団体)

- ・ 森林環境教育の推進
- ・ 森林保全活動の普及啓発
- ・ トレッキングの登山道整備
- ・ 観光や健康維持のための散策路整備
- ・ 車道の新設 など

絞って重点化した方が良く (0団体)

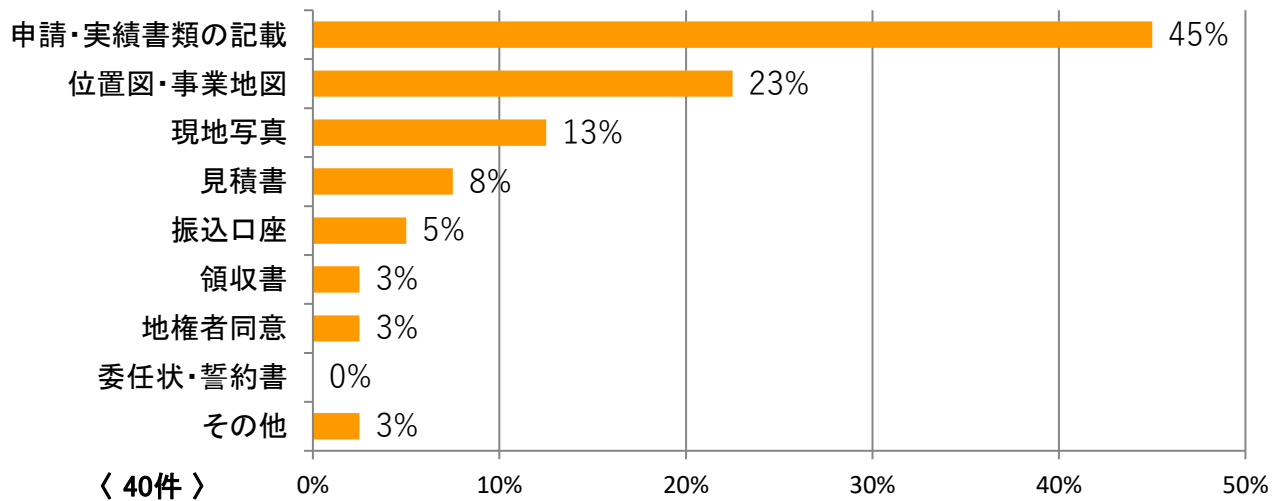
**問8** 事業応募や事業実施に必要な、事業計画書、交付申請書、実績報告書などの書類を作成されるにあたっての作業負担はいかがでしたか。



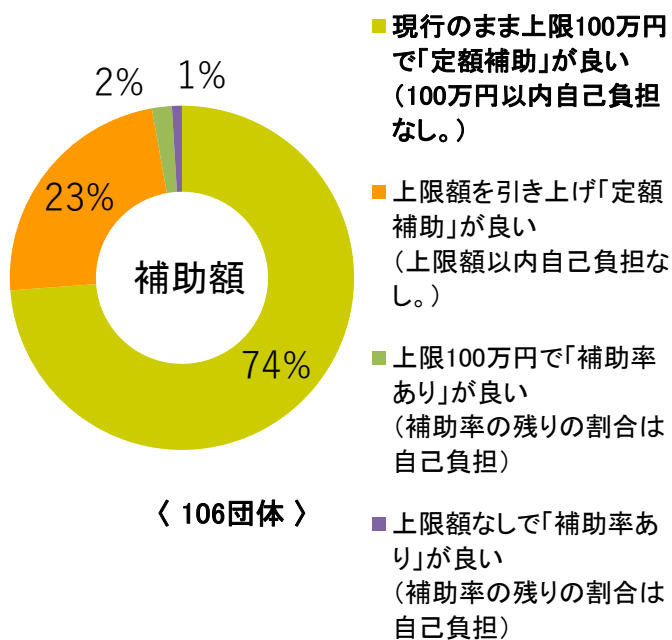
**75%の80団体が書類作成の作業負担をそれほど感じていないと回答、23%の24団体が非常に手間が掛かったなどと回答**

書類作成に非常に手間が掛かったとした21団体に理由を尋ねたところ、書類が複雑で多すぎる(5団体)、専門的知識がない(2団体)、行政の書類作成になれていない(1団体)、その他、他の行政機関の許認可申請や実績も必要で手続きが多い(1団体)と回答した。書類作成を手伝ってもらったとする5団体に、誰に頼んだかを尋ねたところ地元の森林組合などと回答した。

→どの資料の作成に手間が掛かりましたか。（複数回答）



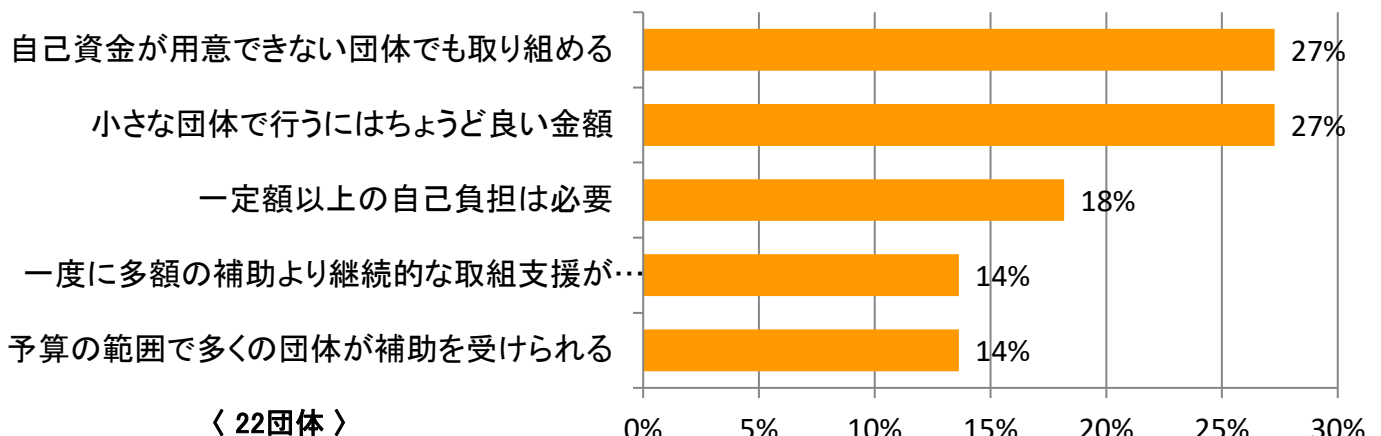
問9 本事業は、上限額100万円の「定額補助」としてありますが、これについては、どのように思われますか。



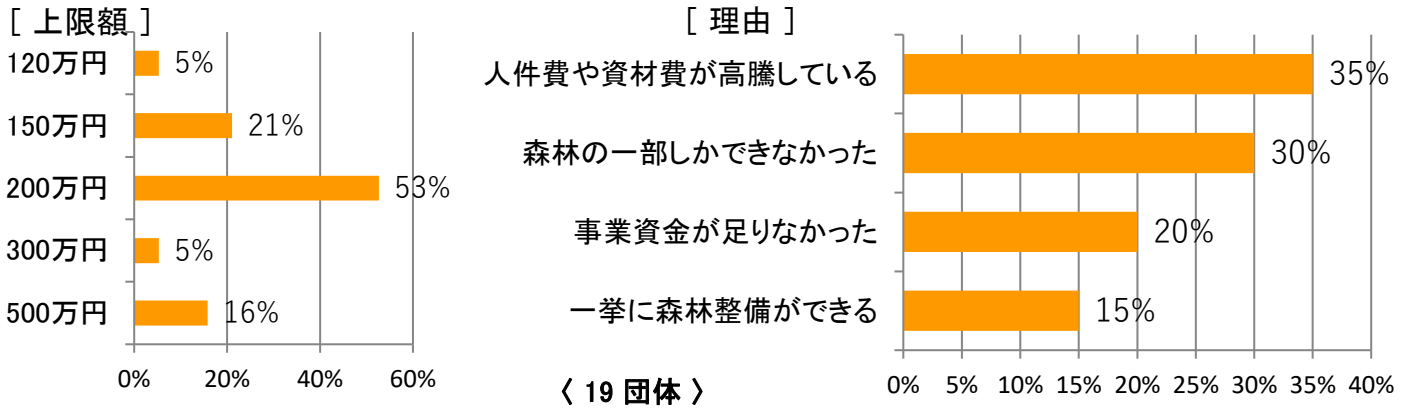
74%の79団体が、現行のまま。上限100万円で「定額補助」が良いと回答した。

補助額について、現行では上限100万円の定額補助（上回る額は自己負担）としているが、79団体がこのままが良いと回答した。その理由として、自己資金が用意できない小さな団体でも定額補助をしてもらえるなら取り組める（6団体）、100万円以内というのが小さな団体にはちょうど使いやすい事業規模（6団体）、一定額以上については自己負担も必要（4団体）、予算規模から考えて100万円以内とすればより多くの団体が助成して貰える（3団体）、一度に多額の補助をもらうより100万円以内を継続的に助成してもらう方が使いやすい（3団体）と回答した。

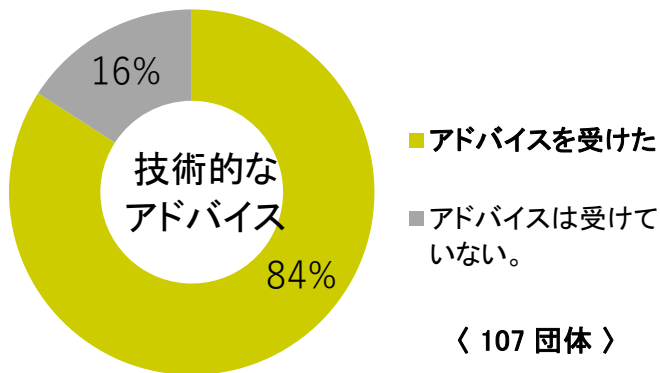
→「現行のまま上限100万円で「定額補助」が良い」を選んだ理由



→「上限額を引き上げ「定額補助」が良い」を選んだ補助額と理由



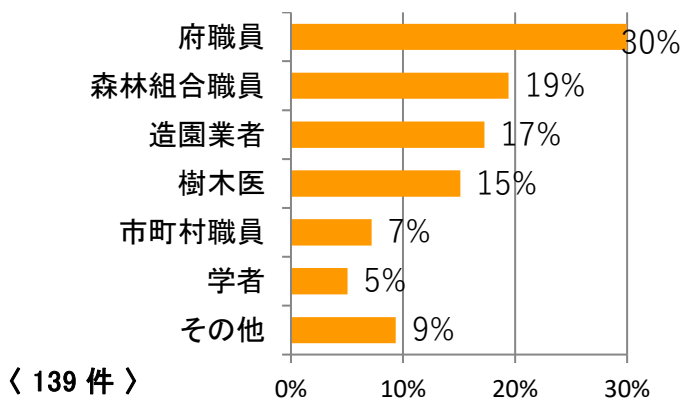
問10 事業計画の作成時や事業実施時に、誰かに技術面でのアドバイスを受けましたか。（複数回答）



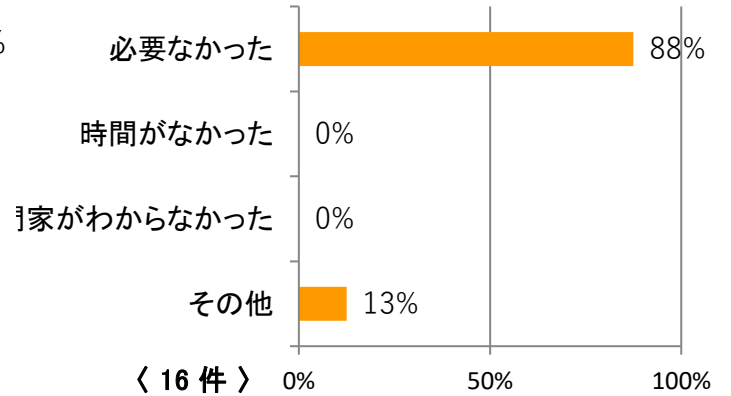
84%の90団体が事業計画作成時や事業実施時に技術面でのアドバイスを受けたと回答した

技術的なアドバイスを受けたとする90団体に誰に相談をしたかを尋ねたところ、①府職員(37団体)が最も多く、次いで森林組合(27団体)、造園業者(24団体)、樹木医(21団体)などの事業者が多かった、一方、アドバイスを受けなかった17団体に理由を尋ねたところ、14団体が必要なかったと回答

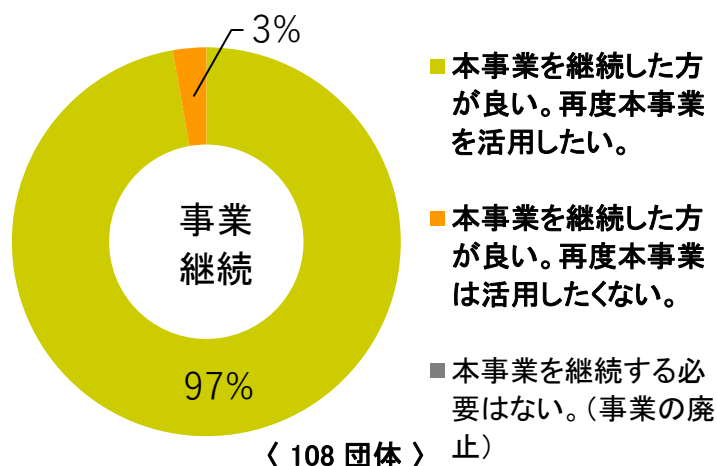
→誰のアドバイスを受けましたか



→アドバイスを受けなかった理由は



問11 豊かな森を育てる府民税を活用した本事業について、次期（令和8年度以降）も本事業を継続した方が良いと考えますか、廃止した方が良いと考えますか。継続した方が良いとお考えの場合、再度本事業を活用したいですか。



100%の108団体が次期も本事業を継続した方が良いと考えており、97%の105団体が再度本事業を活用したいと回答

問12 本事業を利用して気づいた点があればご記入ください。 〈 60 団体 〉

事業支援により課題が解決した、効果があった 27件  
 ・社寺林など地域共有の森の維持対策という積年の課題が解決した  
 ・財政的に厳しい自治会や団体にとって、行政による森の保全の助成はありがたかった  
 ・府の森林環境税の活用方法として、本事業は府民に理解されやすいと思う など

本事業の実施で住民の意識変革に寄与した 8件  
 ・本事業の実施で住民の森への関心が高まった。安全と景観維持向上で住民から感謝された  
 ・本事業を住民で行い、森の保護に対し協力体制やコミュニケーションが良好になった  
 ・住民が地域の森を大切にしたり、整備することに前向きになれた など

事業制度の継続や拡大を望む 3件  
 ・歴史文化都市「京都」の実情に即した制度設計になっている  
 ・京都の木の文化をアピールする上でも大変重要な制度で、今後も拡大していくべき  
 ・行政と市民の連携による文化的な森の保全制度を継続してほしい など

事業制度や事業実施に関する提案や要望 8件  
 ・事業制度を評価する機会があることや実施箇所の数年後の成果検証は必要である  
 ・各地域の森の実情を現地を訪れて熟知した担当職員が欠かせない  
 ・森の専門的知識を持つ技術者や活動を継続していくための後継者育成が課題 など

事業の継続支援に対する要望 12件  
 ・単年度では解決しない課題に対して、長期的、持続的な支援をお願いしたい  
 ・地区内の別の箇所についても事業をしたいとの声が住民から上がっている  
 ・森を活用した地域活性化の長期計画を立てたので、継続的な指導や支援を願う など

事業実施に対する改善要望 8件  
 ・予算を増額して事業が活用できる団体を増やしてほしい  
 ・冬場は積雪があるので、交付決定を早くしてほしい  
 ・申請しても採択してもらえないか不安であった。申請した事業は採択を確約してほしい など

その他 2件  
 ・竹林の活用と生物多様性、景観の維持について地域住民の理解を深めたい  
 ・整備した森を小中学生の遠足に活用するなど、地域の歴史ある森にもっと親しむ機会を作してほしい



## 【アンケートの内容】

### 1 事業成果や波及効果に関すること

問1 貴団体が本事業を活用して取り組まれた森林や樹木の保全対策について、当初目的とされていた成果は達成できましたか。

十分に達成した。

ほぼ達成した。

あまり達成しなかった。

→理由( )

全く達成しなかった。

→理由( )

問2 本事業実施後、実績報告に記載いただいた内容や地域活動について波及効果はありましたか。

(例)波及効果＝「抜き切りや竹林整備で森が明るくなり、枯枝落下の心配がなくなり、地域活動が以前よりも活発に行えるようになった。」など

波及効果はあった。

→どのような波及効果ですか。( )

波及効果はなかった。

問3 本事業では解決できなかった、もしくは事業実施後に生じた、森林や樹木の保全に関連した課題はありますか。

課題はある。

→どのような課題ですか(具体的に )

課題はない。

### 2 本事業に取り組んだ理由

問4 事業で取り組まれた内容について、もし本事業がなかった場合はどのようにされましたか。

団体の自己資金のみで実施した。

寄付を集めて実施した。

借入金で実施した。

別の補助金を活用して実施した。

→検討された補助金の名称、担当課などわかる範囲で記載下さい。

(具体的内容: )

→なぜ、本補助金の方を選ばれましたか。

(理由: )

本事業がなければ資金面から事業実施は断念した。

### 3 事業募集の広報に関すること

問5 本事業の募集について、どこから知りましたか。(複数回答可)

府の担当公所から聞いた。

地元の市町村から聞いた。

→市町村のどのような担当課から聞かれましたか。

農林担当課、文化財担当課、NPO担当課、自治会担当課

その他( )

地元の森林組合や事業者などから聞いた。

近隣の自治会や知り合いの団体から聞いた。

他の事業地で豊かな森を育てる府民税の看板を見た。

募集チラシを入手した。

募集ポスターを見た。(場所は )

→入手先は、府担当公所、市町村、森林組合、神社関係団体、寺院関係団体、文化財関係団体、

植物園、その他( )

京都府の広報で知った。

→ご覧の広報媒体は、府民だより、ホームページ、メーリングリスト、ラジオ番組、府のSNS、その他

市町村の広報で知った。

→ご覧の広報媒体は、市町村の広報紙、市町村のホームページ、

市町村のメーリングリスト、その他( )

その他の方法で知った。(具体的に )

#### 4 事業制度に関すること

問6 本事業では事業対象を①社寺の森、②文化・伝説の森、③伝統産業に使う植物を育成する森、④伝統行事に使う植物を育成する森、⑤名木古木としています。これ以外に本事業の対象となれば良いという文化的な背景のある森林や樹木はありますか。

あり(具体的な対象: )

なし、現行のままで良い。

問7 本事業では事業内容を、①抜き切りや竹林整備などの「森林の整備・維持管理」、②植生復元などの「森林の改良」、③枯死木・枯損枝伐採などの「被害木対策」、④松くい虫やナラ枯れ予防対策などの「森林病虫害獣害対策」、⑤樹勢回復や土壌改良などの「名木古木の蘇生対策」、⑥植生調査や樹木診断などの「調査・保全手法検討」としています。これ以外に対象としてほしい内容がありますか。

現行のままの事業内容で良い。

事業内容は広げて追加した方が良い。

→(追加する内容: )

事業内容は絞って重点化した方が良い。

→(重点化する内容: )

問8 事業応募や事業実施に必要な、事業計画書、交付申請書、実績報告書などの書類を作成されるにあたっての作業負担はいかがでしたか。

比較的簡単に作成できた。

やや手間が掛かったが問題なく作成できた。

非常に手間がかかった。

→それはなぜですか。(理由: )

→どの資料の作成に手間が掛かりましたか。(複数回答可)

申請・実績書類の記載、見積書、地権者同意、振込口座、

現地写真、位置図・事業地図、委任状・誓約書、領収書、

その他( )

団体のメンバー以外の人に作成してもらった。

→それはどなたに依頼しましたか。(組織名: )

その他(具体的に: )

問9 本事業の補助額は、上限額100万円の「定額補助」としていますが、これについては、どのように思われますか。

※部分に数字を記入下さい。

現行のまま、上限100万円で「定額補助」が良い。(100万円以内は自己負担なし。)

→理由( )

上限額を ※ 万円に引き上げ「定額補助」が良い。(上限額以内は自己負担なし。)

→理由( )

上限100万円で「補助率あり」が良い。補助率 ※ % (補助率の残りの割合は自己負担となる。)

→理由( )

上限額なしで「補助率あり」が良い。補助率 ※ % (補助率の残りの割合は自己負担となる。)

→理由( )

問10 事業計画の作成時や事業実施時に、誰かに技術面でのアドバイスを受けたか。(複数回答可)

アドバイスを受けた

→それは誰ですか。学者、樹木医、森林組合職員、造園業者、府職員、市町村職員、その他

アドバイスは受けていない。

→それはなぜですか。

必要なかった、専門家がわからなかった、時間がなかった、その他( )

問11 豊かな森を育てる府民税を活用した本事業について、次期(令和8年度以降)も本事業を継続した方が良いと考えますか、廃止した方が良いと考えますか。継続した方が良いとお考えの場合、再度本事業を活用したいですか。

本事業を継続した方が良い。再度本事業を活用したい。

本事業を継続した方が良い。再度本事業は活用したくない。

→それはなぜですか。(理由: )

本事業を継続する必要はない。(事業の廃止)

その他(具体的に: )

## 5 その他

問12 本事業を利用して気づいた点があればご記入下さい。(自由記入)